

冬季の南湖における大きい目合いの刺網によるオオクチバスの捕獲

臼杵 崇広

1. 目的

大きい目合いの1枚網の刺網による冬季の南湖におけるオオクチバスの捕獲状況について把握するとともに、南湖各地点における大型のオオクチバスの生息状況を調査した。

2. 方法

平成25年2月4日から13日、2月26日から3月9日、3月14日から25日のうちそれぞれ5日間で南湖の東西5ライン上の西部、中央部、東部の3カ所にそれぞれ120mm、136mmおよび151mmの目合いの1枚網の刺網（ナイロンテグス製（151mmは3号、他は2号）、網丈1.5m、長さ75m）を各4把ずつ設置した。刺網は夕方設置し、翌朝回収した。捕獲したオオクチバスの体長、体重、GSI（生殖腺重量/体重×100）および胃内容物を調査した。

3. 結果

各調査期間における各目合いの刺網1把あたりの捕獲重量を図1に、捕獲状況を図2に示した。

1地点における刺網1把あたりの最大捕獲重量は目合い120mmで4.0kg/把、同136mmで8.9kg/把、同151mmで4.2kg/把であった。

捕獲されたオオクチバスの体長は目合い120mmでは 341 ± 20 mm（平均±標準偏差）、同136mmでは 371 ± 26 mm、同151mmでは 411 ± 24 mmであった（図3）。重量はそれぞれ 1130 ± 181 g、 1505 ± 291 g、 2116 ± 275 gであった。

今回の調査は定点での捕獲であるため、捕獲されなかった地点も多かったが、実際の操業では捕獲が期待できる地点での操業となるため1操業あたりの捕獲量は増加すると考えられる。

冬季から初春にかけて大型のオオクチバスを駆除する手法が手薄な状況の中、大きい目

合いの刺網は有効な駆除手法の一つになり得ると考えられる。このため、今後、現場への普及を推進していく必要がある。

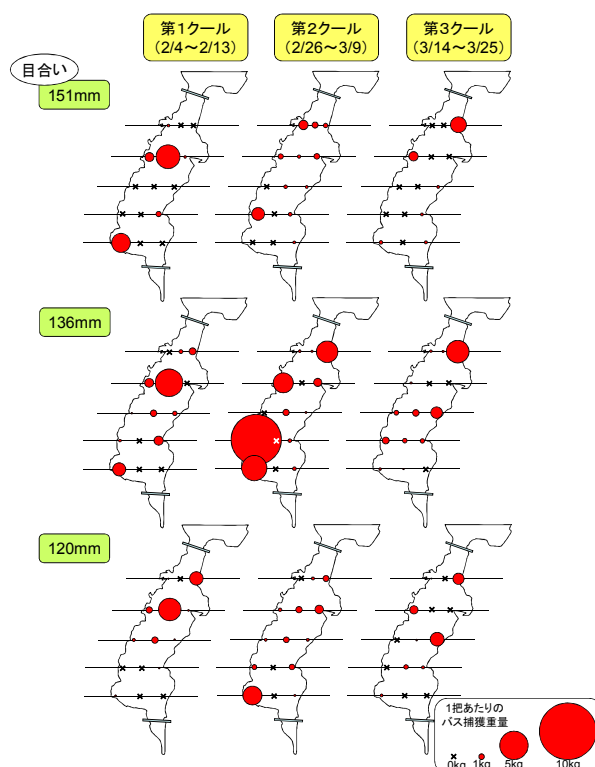


図1 時期ごとと地点ごとのオオクチバス捕獲状況.



図2 オオクチバスの捕獲例(1地点あたり最大捕獲量).

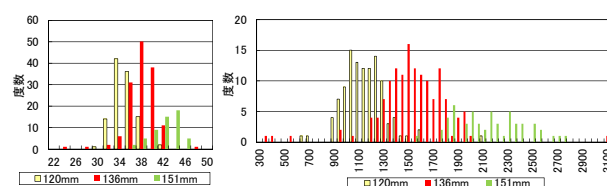


図3 目合いごとのオオクチバスの体長組成と体重組成.